

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	今井 克紀
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象		対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
市民	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
				実績値	41,278	40,483	39,692	38,905	38,422	
				見込値						
				実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
目的	住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合	%	目標値	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	
				実績値	45.8	44.8	49.3	49.0	50.2	
		②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)	件	目標値	20	50	70	90	110	
				実績値	33	65	95	129	153	
		③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合	%	目標値	63.0	63.5	64.0	64.5	65.0	
				実績値	48.2	43.8	43.3	44.9	48.4	
		④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)	件	目標値	30	40	50	60	70	
				実績値	18	48	83	144	177	
				目標値						
				実績値						
成果指標設定の考え方	施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。									
成果指標の把握方法と算定式等	対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)は、実績件数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、前年度49.0%に対し、本年度50.2%で1.2ポイント上昇した。公共施設や病院、公共交通などが徐々に整備されてきたことが要因の一つと考えられる。 ②定住支援事業の支援件数は、前年度34件増に対し本年度24件増と前年度実績を下回った。しかし、一定数の申請が継続しており、定住促進助成金制度が確実に浸透してきていると考えられる。 ③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、前年度44.9%に対し、本年度は48.4%で3.5ポイント向上した。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひなまつりなどが、マスメディアに多数取り上げられているためなどが考えられる。 ④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、前年度61件増に対し、本年度件数が33件増となった。空き家に関する相談は例年一定数あり、市民の関心が高まっているためと思われる。		
	2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合は、目標値65.0%に対し、実績値が50.2%で14.8ポイント下回った。目標値には達していないが、徐々に上昇しており、着実に事業を進めていることが反映してきていると考えられる。 ②定住支援事業の支援件数は、目標値110件に対し、実績値が153件で43件上回った。今後も引き続き事業を進めていくことが期待されていると考えられる。 ③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値65.0%に対し、実績値が48.4%で16.6ポイント下回った。景観の維持向上について、市内でも差があり、住民意識にも違いがあるためと思われる。 ④景観や空き家に関する利活用の相談件数は、目標値70件に対し、実績値が177件で107件上回った。空き家の増加に従って今後も相談件数は増加していくと思われる。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度に成果があった活動は、「用途廃止に伴う住宅入居者の移転事業」及び「景観まちづくり推進事業」である。 用途廃止に伴う住宅入居者の移転事業については、市番番匠住宅入居者で最後の1世帯が他住宅への移転が完了し入居者が0になった。同時に補正予算により同住宅の測量設計積算業務委託を契約し隣接地の所有者に境界等確認頂き、次年度発注予定の設計図書が完成した。 景観まちづくり推進事業では、令和2年度から令和3年度の2ケ年で、桜川市景観計画及び公共施設建設に伴うガイドラインを策定した。	令和4年度早期に入札を実施し早期の借地の返還を目指す。また、次に移転を進める住宅の選定を行う必要がある。 今後は地域の特性を生かした景観の維持向上を図るため、伝統的建造物群保存地区保存計画、歴史的風致維持向上計画とともに令和3年度に新たに策定した桜川市景観計画に基づいて各種事業を進めていく方針である。